

③⑥ 小石川植物園 330年の歴史を持つ日本を代表する植物園

【概要】小石川植物園と呼ばれ親しまれている当園は、正式名称「東京大学大学院理学系研究科附属植物園」という植物学の教育研究施設である。その歴史は貞享元年（1684）年「小石川御薬園」に始まり、園内には長い歴史を刻む巨樹、古木をはじめ東南アジアの植物を中心に 5000 種を超える植物が集められている。植物観察だけではなく、都会の緑のオアシスとして訪れる人々を癒し楽しませてくれる植物園である。

【歴史と文化】

今から 330 年余前の江戸時代、貞享元（1684）年に幕府が設けた「小石川御薬園」がその始まりである。8 代将軍吉宗の時代、享保 7 年（1722）には町医者小川箆船の提言により園内に貧困者救済の施療所を設置、後に養生所となる。明治維新により東京府に移管、明治 10 年（1877）東京大学発足と同時に附属植物園となった日本最古の植物園である（現在は国指定名勝及び史跡にもなっている）。

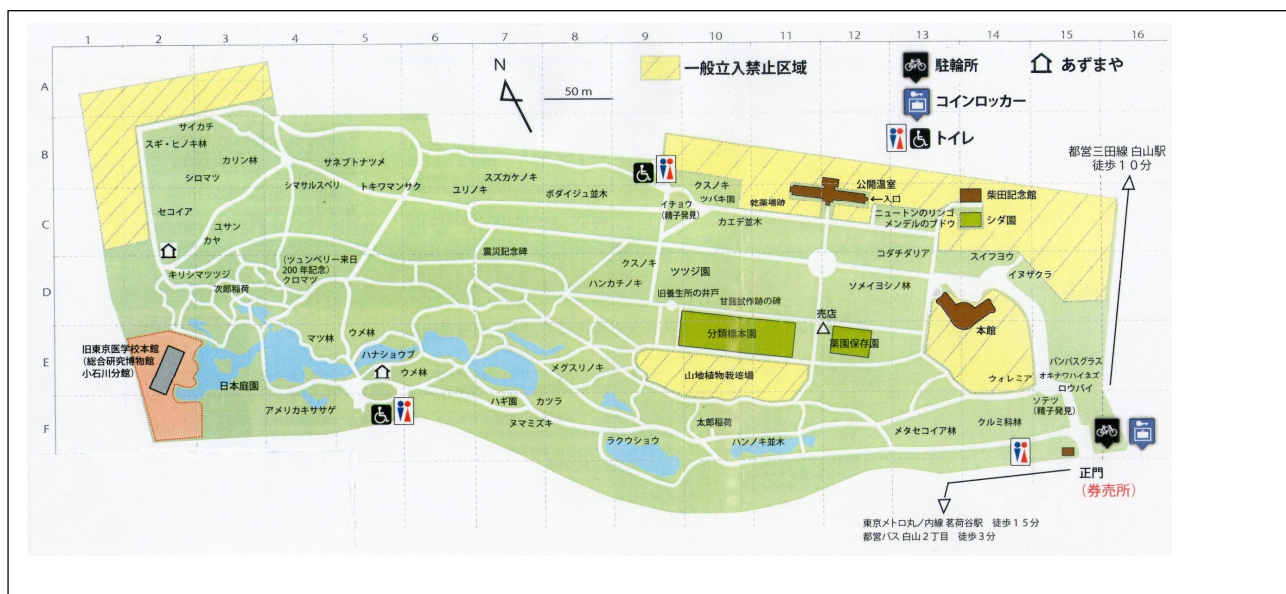
東西に長い 16ha ほどの敷地は台地、斜面、低地、泉水地と変化に富み長い歴史を物語る由緒ある樹木や遺構が数多くある。またこの植物園は近代植物学の発祥の地でもあり、植物学の教育研究の場となっている。本館には 70 万の植物標本と 2 万冊の関連図書を有し東アジアの植物研究センターとして内外の研究者に利用されている。

ここには東アジアを中心に集めた植物（木本 1500 種、草本 1500 種）と、温室では亜熱帯、熱帯の植物約 2000 種が育成されている。また小笠原諸島の固有種で絶滅が危惧される植物の系統保存の努力がなされている。

【園内散策】

正門正面にはスラリと形のよいメタセコイア（戦後アメリカから送られてきた種から育てたもの）が 1 本。緩い坂道を登り左手の本館を過ぎると正面にソメイヨシノ林（日本で最も長寿と推定され学名のタイプ標本となった）、右手に行くと「ニュートンのリンゴ」（ニュートンの生家にあったリンゴの木を接ぎ木したもの）、「メンデルのブドウ」（メンデルが実験に用いたブドウの分株）が、そしてその先には公開温室があり、温室の前はカエデ並木となっている。ソメイヨシノの左手には往時の薬園を記念してコガネバナなどを栽培している「薬園保存園」、植物の分類体系（エングラ体系）を約 500 種の生きた植物で理解できるように植栽した「植物分類標本園」がある。

分類園の右手には青木昆陽の甘藷試作跡の石碑があり、その正面には「旧養生所の井戸」が残されており今でも使用可能である。その後ろには亭々とそびえるクスノキの巨樹が数本、右にたどれば「精子発見のイチョウ」（1896 年、平瀬作五郎）がそびえ、記念の石碑が建てられている。

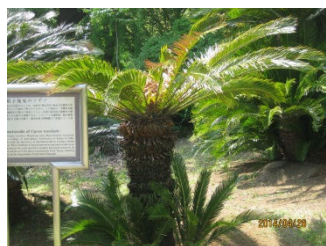


さらに奥へ進むと右手はボダイジュ並木、スズカケノキ、明治初頭に植えられたユリノキの巨樹、薬園時代からのサネブトナツメの老木、そして照葉樹林が葉を茂らせる。シマサルスベリ、カリンの林を過ぎると内外の針葉樹を集めた一画となる。

四阿から下ると眼前が開け日本庭園となる。綱吉の幼時の居邸の跡、江戸の庭園を代表するものといわれる。池の端からの対面の斜面林の眺望は素晴らしい。梅林、ハギ園を抜けてラクウショウ、ハンノキ並木そしてメタセコイア林を通り出発点を左へ。ここにも記念樹「精子発見のソテツ」(1896年、池野成一郎が鹿児島で発見した株の分株)がある。



精子発見のイチヨウ



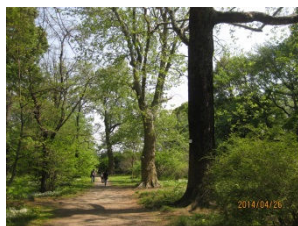
精子発見のソテツ



ニュートンのリンゴ



メンデルのブドウ



スズカケノキ3種



シマサルスベリ



日本庭園から見た斜面林

明治の頃から許可制ではあったが一般に公開されており、鷗外、漱石、寅彦などの文人が訪れていた。植物園を舞台にした文学作品、「赤ひげ診療譚」山本周五郎、「外科室」泉鏡花、「団栗」寺田寅彦、「デンドロカカリヤ」安部公房など多数ある。こうした文学作品に思いを馳せて、春のウメ、サクラからツツジ、ハンカチノキ、秋の紅葉、また、1年を通して何らかの花を楽しめる。園内のまだ見たことのない、聞いたことのない花木を探してみるなど、森林浴を楽しみながら知的好奇心を満たしてくれる都会のオアシスである。

見つけてみよう、こんな木を！

アオガシ、アサダ、アメリカキササゲ、オオモクゲンジ、カイノキ、カゴノキ、ガビハナミズキ、カンレンボク、カンコノキ、ケンボナシ、コバンモチ、サイカチ、サンシュユ、シナアブラギリ、シナウリノキ、シロマツ、セイシカ、スイフヨウ、セイヨウバクチノキ、セコイアメスギ、チドリノキ、チョウキンレン、テツケンユサン、トキワマンサク、ナナミノキ、ナンヨウスギ、ニッケイ、ニッサボク、ニンジンボク、ヌマミズキ、ネコノチチ、ハクウンボク、バクチノキ、ハハジマノボタン、バショウ、ハスノハギリ、ハンカチノキ、ビワバアオキ、フクロミモクゲンジ、プレッシュネイデラシネンシス、ヘツカニガキ、ヘラノキ、マルバチシャノキ、ムニンツツジ、ムラサキサルスベリ、メキシコラクウショウ、モクレイシ、ワダンノキ

【草本類】

分類標本園、薬園保存園、山地植物栽培場、シダ園等にまとめて植栽されている。

【一口メモ】

日光市に山地性植物の研究・教育を目的として分園を設置している。

開園期間：4月15日～11月30日まで

野外講座企画のための情報

FS指数： 水平距離：2～4km 高低差15m程度

トイレ：園内3か所

昼食場所候補：どこでも（但しアルコール不可、禁煙）

安全確保上の留意点：特にないが、頭上枯れ枝に注意